



第393号 平成23年4月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

TEL (075) 256-0351

FAX (075) 241-3568

発行人 奥村正治

この1年

会長 奥村正治

昨年の4月京都市学校医会総会にて会長に推挙されまして、早や1年が過ぎました。会員の先生方の御力添え、副会長や各理事の先生方の御力添えがあり、大過なく新しい1年を迎える事が出来ました。会員の皆様方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

22年度をもちまして6名の大先輩の先生方の定年制でご勇退がございます。中でも面積の広い左京区の遠隔地をご担当して頂きました加藤静允先生には、大原野小中学校、市原野小学校と往復にも時間がかかり大変であったろうと想像いたします。順不同ですが、宮田健先生、古谷幸夫先生、森靖夫先生、田原和夫先生、石田晟先生、永い間、お役目とは云え、ご苦勞様でございました。心より感謝申し上げますとともに、学校医会を離れられましても私達にご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

1年間をふりかえってみますと、京都より外へ出ましたのが、近畿地方を含め5都市7部会。遠い所では、群馬県前橋市で行なわれました「第60回全国学校保健研究大会」でした。詳しくは既刊の校医ニュースをご覧下さい。市内ではありますが、学校保健の中で歯科・薬との関係の集まりが8回、教育委員会も一緒になる学校保健の集りや委員会が13回、主催や共催する講演会・シンポジウムが4回、教育長等を交えての懇談会・会合が7回、定例の理事会13回、他にスポーツ大会3回、ツベルクリン判定、臨時のMR接種など8回（私の記憶ですので実数には差があるかも知れません）。大ざっぱですが、毎週1回ぐらい何か？という勘定になります。当方大ざっぱでありますので、気楽にのぞんでおりますが、き

め細かい前会長長村先生は大変だったろうと想像いたします。しかも6年間も御世話いただいたのですから、本当にご苦勞様でした。ありがとうございました。

会員の皆様方に、特別に御時間を割いて頂き、大過なく終了させていただいた中学1年生MR集団接種でございます。22年度（集団接種終了時）の接種率（集団以前に個別を受けた者も含む）は89.4% [88.2%昨年]と若干ですが伸びております。接種不可者は偶然ですが429名 [429名]でした。問題になる予診票不備者は9名 [7名]と2名増加し、やや残念という結果でした。在籍者は10,101名 [10,560名]と本年はやや減少です。集団終了時点での接種率やや増ですので、最終的な全接種率が楽しみです。

大半の京都市立の小、中、校、総支、学校の教職員の総数は50名以下の学校が大半です。50名以上の学校は18校です。校医の先生方には、この50名以下の学校では教職員の健康相談を中心に産業医的な活動もお願いいたしております。50名以上の18校の学校では産業医を総括産業医と称して、早川道雄先生と長村吉朗先生をお願いいたしておりましたが、学校の統廃校の関係で50名以上の学校が増加してまいりました。お一人の先生の負担の軽減も考え総括産業医の増員を23年度にはいたします。竹内宏一先生に加わっていただきます。どうぞよろしく願い申し上げます。

学校医会の理事の中で内科の先生方が減少したままです。是非とも活性化の意味も含め、理事に参画していただける先生をお願いしたいという願いをし、一年の締めくくりらせていただきます。

思春期・青年期精神保健ケースマネジメント事業 平成22年度第2回運営検討会議に出席して

常任理事 杉本英造

運営検討会議は、京都市こころの健康増進センター（京都市立病院の北側）が中心となり、関係機関：京都市学校医会・京都大学・京都府立医大・京都市立病院・京都家庭裁判所・京都少年鑑別所・NPO法人京都ダルク・京都市ユースサービス協会・京都府警少年サポートセンター・NPO法人京都オレンジの会・左京保健所・児童福祉センター・京都市教育委員会・文化市民局勤労福祉青少年課等、多くの関係者が出席し、近況報告を行うことから始まります。その後、最近の事例が紹介され、意見を出し合うことにより、共通認識、横の繋がりを育成し、関係機関が協力して相談および支援活動を実施し問題解決を目指します。

学校医会からは、平成18年からはじめた「心のワンポイント相談事業」の相談案件50例についての面談者年齢構成・面談者内訳・相談内容等につき報告しました。

全体会議事案は、京都市文化市民局勤務福祉青少年課より子ども・若者総合相談窓口（中京青少年活動センターおよびこどもパトナ）によせられた相談

案件についての報告から。

こども・若者総合相談窓口は、ニートやひきこもり、不登校など社会生活を円滑に営む上での困難を有する子供・若者やその家族の相談に応じ、適切な支援機関の紹介やアドバイスをを行っています。22年10月～23年2月に185件の相談があり、10歳台は不登校、20歳台は就労・引きこもり相談が多く、特筆すべきは性差で、男性7割・女性3割と男性が多く、就労に関係しているようでした。働きたくても働けない世相を反映しているのでしょうか？

次に京都市ユースサービス協会より24歳女性で大学中退し就労できず引きこもっている事例があげられました。若者サポートステーションと連携し、就労させるよう努力しておられましたが、就労へのステップ、本人の希望と現実の能力との解離など、かかえる問題は山積でした。

精神的に不安定な時期にある思春期・青年期の問題行動について、複雑な問題が多く学校医会としても関係機関と協議を持てる運営検討会議は重要と考えています。

平成22年度京都市立学校定期結核健康診断の結果報告

常任理事（結核対策委員） 大久保 秀 夫

平成23年1月27日、京都市立学校結核対策委員会が開催され、平成22年度の結核健康診断の結果報告及び検討がおこなわれた。

平成22年度の間診調査実施数は97,559名でこのうち348名（0.356%）が家族・本人のり患歴、予防内服歴、高まん延国からの帰国、自覚症状あり、BCG未接種等の理由により要検討となった（表1）。要検討理由が「家族あるいは本人が罹患したか感染を受けて予防内服歴がある」による者は小学校、中学校、総合支援学校合わせて43名であったが全員が保健所での管理を受けていた。ツベルクリン反応検査（ツ反）は、高まん延国からの帰国者（88名）とBC

G未接種者（207名）の合計295名を対象に実施され、234名が受診し39名がツ反陽性であった（表2）。胸部X線直接撮影は、上記のツ反の陽性者39名、要検討とされながらツ反を受けなかった者61名、問診にて自覚症状ありとした者10名の合計110名を対象として実施され70名が受診した。そのうち小学生2名が有所見とされたがその後の精密検査で異常なしとの最終診断を得た（表3）。最終結果として平成22年度定期結核診断において結核患児は発見されなかった。一方、要検討に挙げられながら必要な検査を実施できなかった学童・生徒数は40名であった（表4）。不登校、保護者と連絡が取れない、宗教上の理由な

ど種々の理由により精密検査の未受診者は毎年見られるがこれをどのようにするかは今後の課題として残されている。

厚生労働省の平成21年結核登録者情報調査年報集計結果によると、平成21年の我が国の結核新規登録患者数は24,170人であり、結核罹患率は引き続き減少傾向にあるものの減少率は2%台と低い。人口10万人対罹患率は19.0であり、米国(4.3)の4.4倍、カナダ(4.7)の4.0倍、スウェーデン(5.4)の3.5倍、オーストラリア(5.5)の3.5倍で、わが国は依然として結核中まん延国であると位置づけられる(諸外国のデータはGlobal Tuberculosis Control WHO Report 2009)。しかし、年齢階級別では0~4歳児の罹患率(人口10万対)0.6(実人数41人)、5~9歳の罹患率0.2(同13人)10~14歳の罹患率0.4(同26人)と乳幼児期小児期結核の発生は低率である。京都市につ

いてみると、平成21年の新規登録患者数は344人で人口10万対罹患率は23.5と全国的に見て京都市の罹患率は高値である。しかし新規登録患者のうち70.6%(243人)は60歳以上であり20歳未満の新規登録患者は0~4歳の1名と15~19歳の1名の計2名のみであった。

平成15年から実施されている児童生徒定期結核健康診断では京都市での結核罹患者は一例も発見されておらず、全国的に見ても学校定期健診からの発見は過去数例にとどまっている。結核中まん延国である日本では小児結核が再び増加する危険性を常に孕んでいるが、健康診断の調査母数と発見数、わが国の発生数と健康診断による発見数を考えると、現在の児童生徒の結核健康診断は決して効率的とは言えず、今後そのあり方を見直す必要があるかと思われる。

表1 問診結果

校種	在籍数	問診調査実施者数	要検討者数	要検討者内訳			
				家族り患、本人り患、予防内服歴	高蔓延国からの帰国者	自覚症状	BCG未接種
小学校	66,662	66,601	313	31	69	8	205
中学校	30,697	30,530	32	11	19	2	0
総合支援学校	461	428	3	1	0	0	2
合計	97,820	97,559	348	43	88	10	207
割合		99.733%	0.356%	0.044%	0.090%	0.010%	0.212%

表2 ツベルクリン反応検査

校種	対象者	受診者	未受診者	陽性者
小学校	274	220	54	36
中学校	19	13	6	3
総合支援学校	2	1	1	0
合計	295	234	61	39

表3 胸部X線直接撮影

校種	対象者	受診者	有所見者
小学校	98	62	2
中学校	11	7	0
総合支援学校	1	1	0
合計	110	70	2

※有所見者は、その後の精密検査で異常なしと診断。

表4 必要な検査を実施できなかった人数

校種	要検討の理由			合計
	高蔓延国	BCG未接種	自覚症状	
小学校	4	30	2	36
中学校	3	0	1	4
総合支援学校	0	0	0	0
合計	7	30	3	40

第10回 常任理事会

平成23年3月5日
於 事務局

出席者 奥村会長，林・竹内副会長，井本専務理事，
杉本常任理事，佐野眼科学校医会副会長，
星谷耳鼻咽喉科専門医会理事，長村監事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 腎臓相談 3/8 2名
2. 精神衛生研究会 3/10
3. 色覚相談 3/15 2名
4. 校医・小児科医感染症講習会 3/19
座長：長村 於：全日空ホテル
5. 平成22年度 思春期・青年期精神保健ケースマ
ネジメント事業第2回運営検討会議 3/22
杉本出席 於：京都市こころの健康増進センター
6. 新任校医研修会 3/24
講師：奥村，林，竹内，鈴木，井本
於：こどもみらい館 12名参加
7. その他

<協議事項>

1. 平成23年度京都市学校保健会役員選出について
2. 平成23年度京都市学校保健会事業計画について
3. 総会について
4. 総会 懇親会について
5. MR集団接種出務医について
6. 第62回指定都市学校保健協議会「内科・眼科・
耳鼻咽喉科学校医合同研修会」並びに「懇親会」
について
7. その他

<関連学会・各種協議>

1. 全理事会 4/7
於：こどもみらい館 14:00～
2. 精神衛生研究会 4/14
3. 京都市学校医会 総会 4/17
於：竹茂楼 15:30～
4. 第1回常任理事会 5/7
於：こどもみらい館 14:00～
5. その他

京都府医師会指定学校医制度 単位取得研究会のお知らせ

第11回 京都小児科医会 感染症研究会 (日本小児科学会認定単位2単位・指定学校医単位1単位)

開催日 平成23年5月21日(土) 午後5時30分～7時30分

会場 ホテルオークラ京都 3F 翠雲南の間 (河原町御池北東角 TEL 075-211-5111)

講演 一般講演 4題を予定

特別講演 「小児科領域での多剤耐性菌の現状と課題」

国立成育医療センター感染症科 医長 齋藤 昭彦 先生

会費 1,000円

◎ 去る平成23年3月19日(土)「校医・小児科医感染症講演会」にてご寄付頂きました40,000円を京都府医師会へ義援金として寄付致しました。